



10月号 収穫前の害虫防除・貯蔵中の病害について

こんにちは、高南農業改良普及所です。収穫時期が近づいてきましたが、長期予報では10月の気温は平年並か高いため、暑さと同様に害虫にもまだまだ注意が必要です。**栽培終期の防除は収穫物と次作のために重要**です。また、貯蔵中の病害発生にも注意し、次作の病害対策にもつなげましょう。

ハスモンヨトウ（8月号にも掲載）

幼虫は葉だけでなく、**露出した塊茎を食害**することもあります。

<対策>

- ・若齢期防除の徹底、ほ場周辺の作物も防除
- ・発生源となるほ場周辺の雑草繁茂地などの除草

<主な登録薬剤>

- ・アクセルフロアブル
- ・グレーシア乳剤
- ・フェニックス顆粒水和剤 など

※防除の際は農薬の登録内容(散布方法、希釈倍率など)をよく確認したうえで実施してください
 ※薬剤抵抗性発達を避けるため、同一系統の薬剤を続けて散布しないよう注意して下さい

<貯蔵中に発生する病害>

ほ場での**病害防除の徹底、ほ場に残さないこと**が重要です。貯蔵中に発生する病害は、発生した場合、種として使わず、病原菌をほ場へ侵入・増殖させないようにしましょう。

1.貯蔵根茎腐敗病

病原菌：*Pythium spinosum*

生育温度：5～35℃

症状：栽培期間中には発病せず、**貯蔵期間中に茎の傷口などから感染**し、塊茎の陥没や内部の腐敗を生じる。

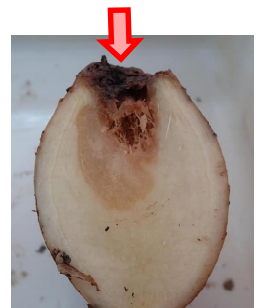
感染経路：本菌に汚染された土壌が、**収穫作業中に茎の切断面に付着して感染**する。

対策

- (1)必ず**無病の種塊茎**を使う。
- (2)**土壌消毒**を行う。
- (3)収穫時に**茎を5cm程度残す**。
- (4)ショウガ以外にもイチゴやレタス、アジサイ、シロクローバー、レンゲなど多くの植物に病原性を示す為、雨水や小動物などにより本病原菌がほ場に侵入している可能性もある。



茎落ち部分



傷口からも侵入し腐敗を引き起こす



裏へ→



2. ショウガ根茎暗斑病

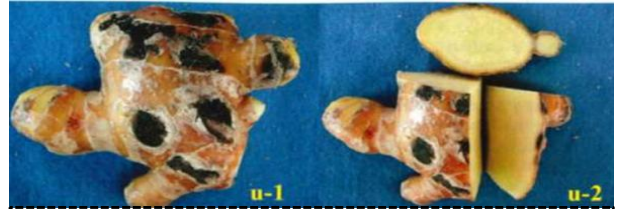
病原菌：*Myrothecium verrucaria*

症状：貯蔵ショウガの表面に黒色斑紋が発生する。

収穫時には気付かず、貯蔵約1ヶ月後の12月中旬以降に発生し、貯蔵期間が長くなるにつれて斑紋が大きく目立つようになる傾向がある。本病名が付く以前は、「黒しみ症」と呼ばれていた。

対策

- (1)必ず**無病の種塊茎を使う**。
- (2)ダゾメット粉粒剤やキルパー液剤等で**土壌消毒を行う**。



表面に黒色斑紋ができるが腐敗は生じない。

3. 紅色根茎腐敗病

病原菌：*Pyrenochaeta terrestris*

(Hansen) Gorenz, Walker et Larson

症状：塊茎に発生し、地上部には症状がみられない。

軽症の場合は、塊茎の表面が淡赤色～褐色に変色する程度。

重症になると塊茎の表面が割れ、その部分が黒褐色に変色する。

収穫時に既に症状がみられる場合もあるが、収穫時にはほとんど症状がみられず、収穫後貯蔵中に発症したり症状が進む場合も多い。土壌中に残った被害組織中の菌糸が第一次伝染源と考えられ、連作すると多発する。

対策

- (1)種塊茎による伝染を避けるため、**異常の認められる塊茎は種塊茎として用いない**。なお、塊茎の一部に症状が認められる場合、外観上健全な部分も保菌している場合があるので注意する。
- (2)罹病植物体を**ほ場に残さず、ほ場外で適切に処分する**。

軽症株



軽症株 表面が赤変する

重症株

表面が割れ、黒褐色に変色する
(内部の腐敗はほとんど見られない)

重症株



※高知県農業技術センター研究報告30号「ショウガ貯蔵根茎腐敗病の発生生態」、高知県農業技術センター特別研究報告第15号「ショウガ根茎暗斑病(新称)の発生生態と防除」「高知県農業技術センターニュース第70号2013年1月」、「こうち農業ネット」より抜粋。